

市川大野高等学園の実践について

障害者の生涯学習については、まず平成 29 年 4 月 7 日付で当時の松野文部科学大臣が「保護者の方々は、特別支援学校卒業後の学びや交流の場がなくなることによる大きな不安を持っている」「今後は、障害のある方々が生涯を通じて教育、文化、スポーツなどの様々な機会に親しむことができるよう、教育施策とスポーツ施策、福祉施策と労働施策等を連動させながら支援していくことが重要」というメッセージを発出しております。

それを受けて、本校では、学校卒業後の学びの場の学習プログラムや実施体制づくりということで、卒業生や保護者、職員、企業へのアンケート調査を行い、実際に生涯学習講座を実施し、その上で細かく分析し、まとめていただきました。保護者、本人、企業など、それぞれの立場でニーズが異なることやどのように情報提供していくか、そしてどう地域の資源を活用していくか等大変参考になる取組です。

この実践のキーワードは、「仲間と学ぶ、楽しむ、つながる」です。今後さらに、地域資源の更なる活用を図りながら、学習プログラムを用いての実践や検証、また在学中の豊かな「学び」の充実、「楽しみ」そして卒業後に「つながる」ための将来を見据えた学習等、障害者の生涯学習支援の先進的な実践を期待しています。